# 令和 8 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 文学国語

教　科： 国語　　科　目： 文学国語　　単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年

| 教科担当者： | A組 | 河合 | B組 | 丸山 | C組 | 河合 | D組 | 梅原 | E組 | 丸山 | F組 | 丸山 | G組 | 梅原 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書： | 『文学国語』東京書籍、最新国語便覧（浜島書店）、漢字Ｌａｂ３５００（浜島書店）、ベーシックマスター国語現代文（Ｚ会）、教養講座文芸２５選（第一学習社）、 | | | | | | | | | | | | | |

教科　国語　の目標：

| | |
|---|---|
| 【知識及び技能】 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができる。 |
| 【思考力、判断力、表現力等】 | 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばそうとする。 |
| 【学びに向かう力、人間性等】 | 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに言語感覚を磨き、我が国の言語文化としての担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図ることができる。 |

科目　文学国語　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する力を身につける。特に、言葉の働きや文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現技法や言語文化の特質について理解を深めることができる。 | 文学的な文章を書くために情報を収集、整理して、表現したいことを明確にする。自由に発想したり評論を参考にして、作品を創作したり、批評しあう活動を通して、書く力を養おうとする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 領域 話・聞 | 領域 書 | 領域 読 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | 単　元　1　小説　2 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | | | | |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | 文学的な文章を読むことで我が国の言語文化の特質について理解を深めることができる。 | 小説２　舞姫 | | | | 文学的な文章を読むことで我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | ○ | | ○ | 【思考力・判断力・表現力】 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | 「読むこと」において文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えることができる。 | 教科書等 | | | | 「読むこと」において文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | 学習課題に沿って作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方にふれながら、文章にまとめることができる。 | デジタル便覧、インターネット | | | | 寓意が表しているものを読みとり、学習課題に沿って、作者が描こうとした意図について考え、内容紹介文を書くことが出来る。 | | | | |
| | 単　元　2 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | | | | |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 定期考査（第１学期中間考査）/返却と解説 | | | | | | | | | |
| | 単　元　3　小説　2 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | | | | |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | 文学的な文章を読むことで我が国の言語文化の特質について理解を深めることができる。 | 小説２　舞姫 | | | | 文学的な文章を読むことで我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | ○ | | ○ | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | 7 |
| | 「読むこと」において文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えることができる。 | 教科書等 | | | | 「読むこと」において文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | 寓意が表しているものを読みとり、学習課題に沿って、作者が描こうとした意図について考え、内容紹介文を書くことが出来る。 | デジタル便覧、インターネット | | | | 寓意が表しているものを読みとり、学習課題に沿って、作者が描こうとした意図について考え、内容紹介文を書くことが出来る。 | | | | |
| | 単　元　4　言語活動 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | | | | |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にできる。 | 言語活動　小説を創作する | | | | 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | 「読むこと」において文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えることができる。 | 教科書等 | ○ | ○ | ○ | 「読むこと」において文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 | ○ | ○ | ○ | 9 |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | 自由に発想したり、評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動ができる。 | デジタル便覧、インターネット | | | | 自由に発想したり、評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動をしている。 | | | | |
| | 定期考査（第１学期期末考査）/返却と解説 | | | | | | | | | |

# 令和 8 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 文学国語

教　科：国語　　科　目：文学国語　　単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年

| 教科担当者： | A組 | 河合 | B組 | 丸山 | C組 | 河合 | D組 | 梅原 | E組 | 丸山 | F組 | 丸山 | G組 | 梅原 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書： | 『文学国語』東京書籍、最新国語便覧（浜島書店）、漢字Ｌａｂ３５００（浜島書店）、ベーシックマスター国語現代文（Ｚ会）、教養講座文芸２５選（第一学習社）、 | | | | | | | | | | | | | |

教科　国語　の目標：

| | |
|---|---|
| 【知識及び技能】 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができる。 |
| 【思考力、判断力、表現力等】 | 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばそうとする。 |
| 【学びに向かう力、人間性等】 | 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに言語感覚を磨き、我が国の言語文化としての担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図ることができる。 |

科目　文学国語　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する力を身につける。特に、言葉の働きや文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現技法や言語文化の特質について理解を深めることができる。 | 文学的な文章を書くために情報を収集、整理して、表現したいことを明確にする。自由に発想したり評論を参考にして、作品を創作したり、批評しあう活動を通して、書く力を養おうとする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 領域 話・聞 | 領域 書 | 領域 読 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 単元 5　小説　1 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。 | 小説１　檸檬 | | | | 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | 「読むこと」において語り手の視点や場面の設定の仕方・表現の特色について評価することを通して内容を解釈できる。 | 教科書等 | | | | 「読むこと」において語り手の視点や場面の設定の仕方・表現の特色について評価することを通して内容を解釈している。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | 粘り強く登場人物の心情を把握し。学習課題に沿って主人公の内面と苦悩を理解して話し合いができる。 | デジタル便覧、インターネット | | | | 粘り強く登場人物の心情を把握し。学習課題に沿って主人公の内面と苦悩を理解して話し合いをしている。 | | | | |
| | 単元 6 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | | | | |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 定期考査（第２学期中間考査）/返却と解説 | | | | | | | | | |
| | 単元 7　小説　3 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 9 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | 文学的な文章を読むことで我が国の言語文化の特質について理解を深めることができる。 | 小説３　葉桜と魔笛 | | | | 文学的な文章を読むことで我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察できる。 | 教科書等 | | | | 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察できる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | 学習課題に沿って作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方にふれながら、文章にまとめることができる。 | デジタル便覧、インターネット | | | | 学習課題に沿って作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方にふれながら、文章にまとめている。 | | | | |
| | 単元 8　詩歌 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | ○ | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | 詩や短歌と短歌に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解して味わうことができる。 | 詩歌　帰途 | | | | 詩や短歌と短歌に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解している。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | 随筆に綴られている筆者の感じ方や思いを読み取り、ものの見方を広げることができる。 | 教科書等 | | | | 随筆に綴られている筆者の感じ方や思いを読み取り、ものの見方を広げることができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | 詩についての筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って詩の特質について考えを深めることができる。 | デジタル便覧、インターネット | | | | 詩についての筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って詩の特質について考えを深めることができる。 | | | | |
| | 定期考査（第２学期期末考査）/返却と解説 | | | | | | | | | |

# 令和 8 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 文学国語

教　科： 国語　　科　目： 文学国語　　単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年

| 教科担当者： | A組 | 河合 | B組 | 丸山 | C組 | 河合 | D組 | 梅原 | E組 | 丸山 | F組 | 丸山 | G組 | 梅原 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書： | 『文学国語』東京書籍、最新国語便覧（浜島書店）、漢字Ｌａｂ３５００（浜島書店）、ベーシックマスター国語現代文（Ｚ会）、教養講座文芸２５選（第一学習社）、 | | | | | | | | | | | | | |

教科　国語　の目標：

| | |
|---|---|
| 【知識及び技能】 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができる。 |
| 【思考力、判断力、表現力等】 | 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばそうとする。 |
| 【学びに向かう力、人間性等】 | 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに言語感覚を磨き、我が国の言語文化としての担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図ることができる。 |

科目　文学国語　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する力を身につける。特に、言葉の働きや文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現技法や言語文化の特質について理解を深めることができる。 | 文学的な文章を書くために情報を収集、整理して、表現したいことを明確にする。自由に発想したり評論を参考にして、作品を創作したり、批評しあう活動を通して、書く力を養おうとする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 領域 話・聞 | 領域 書 | 領域 読 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | 単　元 9　小説　３ | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解することができる。 | 小説３　蠅 | | | | 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解できている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察できる。 | 教科書等 | | | | 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | 寓意が表しているものを読みとり、学習課題に沿って、作者が描こうとした意図について考え、内容紹介文を書くことが出来る。 | デジタル便覧、インターネット | | | | 寓意が表しているものを読みとり、学習課題に沿って、作者が描こうとした意図について考え、内容紹介文を書くことが出来る。 | | | | |
| | 単　元 10　詩歌 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | ○ | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | 詩や短歌と短歌に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解して味わうことができる。 | 詩歌　夏の姿 | | | | 詩や短歌と短歌に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解している。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | 随筆に綴られている筆者の感じ方や思いを読み取り、ものの見方を広げることができる。 | 教科書等 | | | | 随筆に綴られている筆者の感じ方や思いを読み取り、ものの見方を広げることができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | 詩についての筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って詩の特質について考えを深めることができる。 | デジタル便覧、インターネット | | | | 詩についての筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って詩の特質について考えを深めることができる。 | | | | |
| | 単　元 11 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | | | | |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 単　元 12 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | | | | |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | 【知識及び技能】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | 【思考力・判断力・表現力】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 定期考査（学年末考査）/返却と解説 | | | | | | | | | |